こころと身体 Soteria GMC

札幌市北区篠路

五稜会病院 広報誌第56号

平成29年冬～平成30年新春

今年は11月に雪が積もりました。例年よりも早いです。これから冬本番、除雪にも精が出ます。道路はつるつる、転ばないように注意して下さい。

平成29年の五稜会病院と社会情勢

今年も、あとわずかになりました。早いもので1月の新年からあっという間に時間が経ち、忘年会のシーズンに突入です。これからは、飲み過ぎ食べ過ぎに注意しましょう。

平成29年10月には、第22回日本ストレスケア病棟研究会が当院で開催されました。1年前から準備を進めていたものです。昨今、ストレス関連疾患の患者さんが増えています。研究会では、当院のストレスケア・思春期病棟を中心とした治療内容の実践報告を行いました。事例検討も行い、全国のストレスケア病棟研究会所属の参加者の方と意見交換を行いました。新たな刺激を得て、病院全体のさらなる治療内容の向上を図りたいと考えております。

今年、1年有り難うございました。

医療法人社団五稜会病院理事長：中島公博

五稜会病院の理念

情熱と個々への配慮

1 患者さんの病前の社会背景と病状を理解し、個々を尊重する治療に努める。
2 医療の情報開示を行い、患者さんとの信頼関係を大切にした医療を行う。
3 地域医療連携を密にし、精神科・心療内科の基幹病院としての役割を担う。
4 臨床研究を行いながら、優れた医療人の育成に努める。

学会・研究発表

秋の学会シーズンも終わりました。次は2月から地方会での発表が始まります。私たちは最新の医療を提供出来るように、日々研鑽し努力しております。

平成29年10月21日（土）に

第22回日本ストレスケア病棟研究会が、当院で開催されました。全国から約90名の参加者があり、多目的ホールを会場に、当院のストレスケア・思春期病棟の実践報告をさせて戴きました。

平成29年12月1日
★札幌市北区「平成29年度若者のいのちを守る人材育成事業」
未来を創る若者の命を守るために
～対処と予防の実践・市立札幌大通高校の現場から～
パネリスト：清水優子

平成29年12月8日
★第25回日本産業ｽﾄﾚｽ学会
「医療業務に従事する労働者のｽﾄﾚｽ反応の予測ﾓﾃﾞﾙ：ｽﾄﾚｽﾁｪｯｸのﾃﾞｰﾀを用いた縦断的研究」　戸田愛貴子

平成30年2月3日
★第38回札幌市病院学会
「ｿｰｼｬﾙｽｷﾙの学習において般化に焦点を当てた個別SST実践での行動変化と考察～症例を通して～」小川大地
「精神科入院患者の友人の自殺を受容する過程～関係ｽﾀｯﾌと本人参加ｶﾝﾌｧﾚﾝｽを行ったｹｰｽを通しての考察～」
遠藤愛子

平成30年2月18日
★第43回札幌市医師会医学会
「民間の単科精神科病院における自死症例の検討」
中島公博

平成30年2月25日
★第43回日本心身医学会北海道支部例会
「五稜会病院での摂食障害に関する検討（仮）」
臨床心理士：藤井美緒

他に外部貢献として、富永英俊副院長は、札幌市消防学校で精神疾患の講義をしております。当院は救急車の受入れを当院での治療対象者であれば受け入れることを原則としています。救急隊の方々に精神疾患の理解を深めて戴きたいと思っております。

患者さんの権利綱領

五稜会病院の職員は、患者さんの次の権利を順守して日々の医療を行います。

1 安全で適正な医療を公平・平等に受ける権利
2 個人の生き方、信条、尊厳などが尊重される権利
3 病状、検査結果、治療方法・結果などについて、納得のいく説明を受ける権利
4 十分な説明や情報提供のもとで、どのような医療を受けるかを選択する権利
5 如何なる不利益を受けることなく、検査・治療などを拒否する権利
6 希望によりセカンドオピニオン（他の医師の意見を聴くこと）を受ける権利
7 如何なる場合も、個人情報やプライバシーが守られる権利

最近の精神科医療政策のご紹介

隔離・拘束の実態調査

平成25年精神保健福祉資料では、精神科入院患者の拘束数が10 年前と比べて約2倍に増加したとされています。これを受けて、平成28年11月に参議院厚生労働委員会で国会議員が拘束の増加要因の質問をし、厚生労働省からは、平成11 年（厚生科学研究費補助金事業「精神科医療における行動制限の最小化に関する研究・主任研究者：浅井邦彦」）と同等の調査を平成29 年6 月に行うと表明しました。平成11 年以降、わが国ではこのような隔離・拘束に関する大規模調査はおいて実施されていません。精神科医療における隔離と拘束の実態、及び近年の増加要因を調査は、厚生労働指定研究を実施している「精神科医療提供体制の機能強化を推進する政策研究」（研究代表者：山之内芳雄）が担当しています。

また、平成11 年調査を契機に行動制限最小化委員会の設置等の措置が取られました。その効果をはじめ、医療安全意識の高まり・急性期医療の充実・高齢化等の精神医療を取り巻く環境変化の影響が把握されていません。さらに、隔離・拘束に関する運用は地域や施設ごとにばらつきがあり、その実態も把握されていません。調査では精神病床でどのような患者がどのような理由で隔離・拘束を実施されているのか、隔離・拘束が、精神科医療従事者の中でどのような環境・運用・意識や不安のなか実施されているのか、行動制限最小化委員会、医療安全委員会が隔離・拘束の実施に影響しているのか、などが検討されることになっています。

五稜会病院では、年齢層が若い患者さんが多く、拘束を要する患者さんはほとんどいません。隔離は、厚労省の通達に従ってやむを得ない場合にのみ行っています。全て法に則って人権に配慮して手続きを行っています。

医療観察法

厚生労働省は11月28日、「医療観察法の医療体制に関する懇談会」の初会合を開きました。平成17年の法施行から12年が経過し、指定医療機関は当初の整備目標をほぼ確保できていますが、地域偏在や一部で入院期間が長期化しているなどの課題があるため、有識者や現場の意見を集めることになりました。意見は平成30年度の医療観察診療報酬改定の参考にもなります。座長は、千葉大大学院医学研究院精神医学教授伊予象雅臣氏。

医療観察法は、心神喪失など精神障害のために刑事責任を問えない状態で、重大な他害行為をした人への適切な医療提供と社会復帰の促進が目的です。現在、指定入院医療機関は、北海道や四国などを除く29都府県で33ヵ所（833床）整備されており、756人（11月１日現在）が入院。平成29年9月30日までの累計入院実績は2992人、そのうち退院が決定2247人。一方、指定通院医療機関はほぼ全国を網羅し、病院と診療所で合計595ヵ所整備されています。観察医療法医療の医療費は年間約160億円。

五稜会病院は、医療観察法の指定通院医療機関と鑑定入院を担っています。北海道にまだ指定入院医療機関がないのが問題です。

当院は患者さん本位の医療を提供しようと考えております。
お気づきの点はご相談下さい。

治験のご協力のお願い

現在、当院では「統合失調症」に対する薬剤の臨床治験を行っています。創薬（薬を創りだす）は国家戦略の一部です。臨床治験を行わないと、良い薬を世の中に出すことは出来ません。参加される方には負担軽減としての費用を差し上げています。今後、AD/HDの治験も予定しています。詳しく知りたい方は主治医にご相談下さい。

統合失調症

典型的な症状は幻聴と妄想です。最近では主治医から病名の告知もなされています。かつてのような不治の病ではありません。適切な薬物療法が必須です。

また、18歳までの年齢で、統合失調症と診断されている患者さんの治験を実施しています。未成年の場合、親御さんの同意が必要です。

AD/HD(注意欠陥多動性障害)

まもなく、治験が開始されます。興味のある方は主治医にお尋ね下さい。

五稜会病院　概要

標榜科名：精神科・心療内科・内科・消化器科

病床数　193 床
- 急性期病棟　48 床
- ｽﾄﾚｽｹｱ・思春期病棟　48 床
- 療養病棟 A　49 床
- 療養病棟 B　48 床

従業員数　約 200 名

医師数　常勤	7名	非常勤	10名
看護師	84名		
薬剤師	2.5名		
臨床検査技師	２名	非常勤	２名
臨床心理士	８名	非常勤	４名
作業療法士	９名	音楽療法士	１名
精神保健福祉士	10名		

五稜会病院沿革

開　設	昭和47年
医療法人開設	平成２年

編集後記

あっという間の酉年でした。良いことも悪いことも忘年会で忘れましょう。やっぱり、良いことは残しておきますか。そして、新たな出発と出会い、来年は犬年です。

発行：平成 29 年 11 月 30 日
〒 002-8029
札幌市北区篠路９条６丁目２－３

こころと身体のクリニック　医療法人社団　五稜会病院

発行責任者：広報委員 清水優子・羽生恵美
電話：011-771-5660
http://www.goryokai.com
mail：GMC@goryokai.com

ストレスケア病棟研究会報告

平成29 年10 月21 日（土）「第22 回日本ストレスケア病棟研究会」が当院で開催されました。当日は、全国のストレスケア病棟をもつ17病院の医師、看護師、精神保健福祉士、心理士、作業療法士など約90 名の多職種が参加しました。

午前は５つの実践報告、午後からはシンポジウムと事例検討、昼休みには院内見学会といった内容で実施しました。

実践報告では、「看護カウンセリング」に関心が高く寄せられ質問が集中しました。また、坂野心理士 と不知火病院の徳永医師 が互いに意見や疑問をぶつけ合いながら知識を深めている場面を目の当たりにし、感銘を受けました。

院内見学では、みなさん関心しながら写真を撮られ、集団療法のパンフレットは次々なくなり、「開放病棟でこういう理想を本当に実現できるのですね」といった感想、オープンカウンターのナースステーションをどうやって機能させているかという質問、入院案内・摂食・発達パスなどがほしいなどの要望も多かったです。

準備から関わらせていただいたことで、五稜会病院ならではのカラー、患者さんを良くしたいという想いでみんなが頑張っているからこそ生み出してきた魅力に気付かされ、そして、改めて自分がいい環境で仕事をしているんだということを再確認した良い体験となりました。

この度はたくさんの方にお手伝いのご協力をいただき、無事研究会を終了できたことに改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

（5 病棟 看護師　浮田）

懇親会は、会場を病院からサッポロビール園に移し北海道のグルメを堪能して頂きました。ジンギスカン・お寿司・カニ・じゃがいも・とうきび等がテーブルいっぱいに並べられ、参加者の方々には大変喜ばれておりました。日本ストレスケア病棟研究会会長の徳永先生（不知火病院院長）の挨拶で始まり、余興では研究会当日の写真のスライドショーを上映しながら、各病院の紹介とサイコロで出た目のお題（病院の夢等）を発表して頂きました。大変盛り上がった中、次回幹事病院の草津病院佐藤理事長より閉会の挨拶と乾杯のご発声を頂き、懇親会を終了致しました。

（総務課　森田）

包括的暴力防止プログラムの取り組みについて

当院では、院内で起こる暴力への対策の1つとして、『包括的暴力防止プログラム』(ＣＶＰＰＰ)に積極的に取り組んでいます。ご存知の方も多いかと思いますが、ＣＶＰＰＰとは、ただ単に暴力行為を物理的な力で抑止するものではなく、リスクアセスメント・ディエスカレーション・チームテクにクス・ブレイクアウェイ・ディブリーフィングという要素を含む、系統的で包括的なプログラムのことです。

暴力場面においても、患者さんの尊厳を守り、可能な限りの安全に務め、なお且つ、スタッフの安全も守れるようになるためにＣＶＰＰＰの研修に参加し院内トレーナーの資格を取得した者(現在８名)を中心にチームを組み院内での普及、実践に取り組んでいます。

今後もよりよい医療の実践に向け、真摯に取り組んでいきたいと思います。

（精神科専門看護師　鈴木）

外来の中庭に手作りハーブガーデンが完成しました

「この空間を癒しの空間にしたい！ハーブガーデンだ！」そう思い、プロジェクトリーダーの小田（検査技師長）が『ハーブ研究家/狩野亜沙乃さん』に監修をお願いしたところ、熱い思いが伝わり快諾してくださり、職員とデイケアのメンバーの手づくりで5ヶ月かけてやっと完成しました。レンガ積みから始まり、花壇の土入れ、100本以上の苗植えは患者さんも手伝ってくださいました。ハーブは、香りや薬効成分を含む植物です。花や葉を鑑賞したり、触れたり、味わうことで五感を刺激します。さらにハーブの香りは直接大脳に働きかけ、心身の不調に役立てます。今後、季節の移ろいを感じながら患者さんとスタッフ共にハーブを育て、愛着のある癒される空間をコーディネートしていきます。

育ったハーブは作業療法やデイケアなどのプログラム内でアロマテラピー、ポプリ、料理に活用させます。是非、病院にお越し際には直接触れて頂けると嬉しいです。

（事務長　田中）